

## 第4回 Rise up CT Conference 参加報告

札幌医科大学附属病院 大橋芳也

皆さんこんにちは。

札幌医大病院の大橋です。

5月13日（土）に開催された Rise up CT Conference に参加発表させていただきましたので一部を報告させていただきたいと思います。

今年は、国立がん研究センター中央病院にてオンライン+対面でのハイブリッド開催となりました。プログラムは、CT 装置情報提供、画論からのトピックス、アプリケーションソフトセッション、装置性能に関するセッション、Rise up Lecture となっており、日頃から Canon 社製の CT 装置を隅々まで使い倒しているユーザーからの発表が会を盛り上げました。代表理事の藤田医科大学病院の井田氏が、この研究会で得た技術を持ち帰って活用していただきたいとおっしゃっていたように明日から臨床で実践できる内容が多かったように思います。国立がんセンター東病院の野村氏からプロトタイプのフォトンカウンティング CT の画質特性が紹介され、シンチレーターがなくなることにより電気ノイズを

除去したデータ収集が可能になり、更なる空間分解能の向上が可能になるようです。国立がんセンター中央病院の瓜倉氏からは、非剛体サブトラクションを用いたヨード定量化という内容で報告いただきました。CT 画像のヨード濃度を非剛体サブトラクションで精度高く計測できることはがん診療においてメリットが大きく、Dual-energy CT が導入されていない施設でも十分に活用できる方法のようです。今回私は、僭越ながら「高精細 CT における門脈系静脈 3DCT のキモ」と題し、高精細 CT で静脈解剖を明瞭に描出する臨床的メリットを報告させていただきました。会場で様々な意見交換ができ、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

P.S 築地のマグロは美味でした！



会場：国立がんセンター中央病院にて



築地場外市場：とんぼやにて（まぐろステーキ）